

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立白沢小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問調査)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問調査)

4 本校の実施状況

第4学年	国語39人	算数39人	理科39人
------	-------	-------	-------

第5学年	国語38人	算数38人	理科38人
------	-------	-------	-------

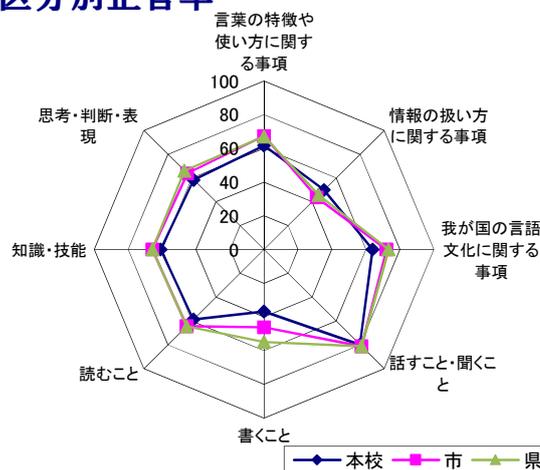
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立白沢小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	61.7	67.4	67.1
	情報の扱い方に関する事項	50.0	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	63.9	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	79.9	81.2	81.2
	書くこと	36.8	46.2	54.9
	読むこと	58.7	64.3	64.5
観点	知識・技能	60.9	65.7	65.7
	思考・判断・表現	58.5	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

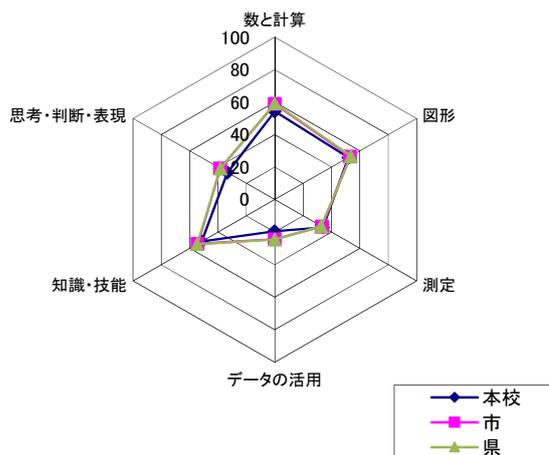
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	領域の平均正答率は61.7%で、市平均より5.7ポイント低い。 ○対義語に関する設問では、市平均より0.5ポイント上回っている。 ●第3学年の配当漢字の読み書きについては、6問中4問で市の平均を下回っている。	・日常的に既習の漢字を正しく使えるよう、ノート指導をしていく。 ・家庭学習で漢字を効果的に復習できるようにしたり、朝の学習を充実させたりする。
情報の扱い方に関する事項	領域の平均正答率は50.0%で、市平均より6.2ポイント高い。 ○国語辞典の使い方に関する設問では、市平均より6.2ポイント上回っている。	・こまめに国語辞典を使いながら、語彙力を豊かにしていく。 ・物語文の単元では意味がわからなかった単語について国語辞典で調べるようにし、国語辞典を身近な物にできるようにする。 ・同音異義語についても、国語辞典を使って調べ、より妥当な意味を推測できるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	領域の平均正答率は63.9%で、市平均より8.2ポイント低い。 ○漢字のへんやつくりに関する設問では、市平均より8.2ポイント下回っている。	・漢字辞典を使うことを推奨しながら、新出漢字学習の際にへんやつくりに着目して学習できるようにする。
話すこと・聞くこと	領域の平均正答率は79.9%で、市平均より1.3ポイント低い。 ○司会者の話し方の工夫を捉える設問では、市平均より5.2ポイント上回っている。 ●自分の考えを理由を挙げながら話すことに関する設問では、市平均より3.5ポイント下回っている。	・授業中に積極的に子どもたち同士の学び合いの場を取り入れることで、自分の意見を相手にわかりやすく伝えられるようにしていく。 ・自分の意見に理由付けをして相手に伝えられるようにしたり、相手の意見を聞いて自分の意見と比べながら聞いたりできるように授業内で意見と意見をつなぐようにする。
書くこと	領域の平均正答率は36.8%で、市平均より9.4ポイント低い。 ●2段落構成で文章を書くことに関する設問では、市平均より9.1ポイント下回っている。	・意見や感想等の自分の考えを詳細に書く活動を通して、決められた長さで文章を書く指導を充実させていく。 ・国語だけでなく、他教科とも関連させ、書く機会を増やし、書く力を向上させていく。
読むこと	領域の平均正答率は58.7%で、市平均より5.6ポイント低い。 ○登場人物の気持ちについて叙述を基に捉える設問では、市平均より3.6ポイント上回っている。 ●中心となる語や文を見つけて要約する設問では、市平均より22.7ポイント下回っている。	・読書の機会を増やし、想像力を働かせながら読み進める楽しさを実感させるようにする。 ・説明文の学習では、接続語に着目しながら意味のつながりを読み取れるようにしたり、文のねじれに注意しながら文章を書けるように指導したりしていく。

宇都宮市立白沢小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	54.3	58.9	59.2
	図形	51.9	53.0	53.7
	測定	34.0	33.1	32.6
	データの活用	19.4	24.4	24.6
観点	知識・技能	51.5	54.3	54.7
	思考・判断・表現	33.3	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

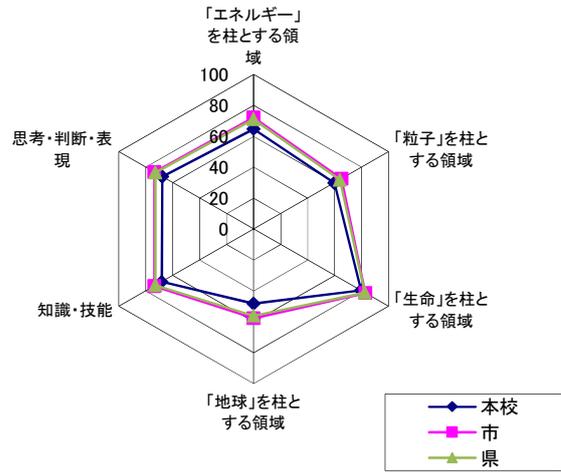
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>領域の平均正答率は54.3%で、市平均と比べて4.6ポイント下回った。</p> <p>○分数の表す正しい大きさを答える問題では、市平均より5.7ポイント高い。</p> <p>●大きな数の表し方についての問題では、市平均より16.1ポイント下回った。</p> <p>●数量の関係について口を使って正しく表された式を選ぶ問題では、市平均より15.3ポイント下回った。</p>	<p>・計算ドリルやスマイルネクストドリル等を活用し、計算問題に繰り返し取り組ませ、基礎基本の定着を図る。</p> <p>・問題文の重要な言葉や数に線を引きかせるよう指導することで、問題の題意に沿った立式ができるようにする。</p> <p>・授業中、立式の考え方を説明する場面では、友達の見をまねて言う活動を取り入れるなどして、数学的に表現することに慣れさせる。</p>
図形	<p>領域の平均正答率は51.9%で、市平均と比べて1.1ポイント下回った。</p> <p>○円の性質を利用して正三角形を作図する問題では、市平均を5.5ポイント上回った。</p> <p>●球の性質を利用し、長さを求める問題では、市平均より6.2ポイント下回った。</p>	<p>・円の直径や半径を求める問題だけでなく、求めた長さを使って、さらに別の物の長さについて考える問題に取り組みさせることで、知識を活用して考えられるようにする。</p>
測定	<p>領域の平均正答率は34.0%で、市平均と比べて0.9ポイント上回った。</p> <p>○重さの単位を理解して、合計の重さの大小を比較する問題では、市平均より9.8ポイント高かった。</p> <p>○はかりの目盛りを読み取り、重さを答える問題では、市平均を7.3ポイント上回った。</p> <p>●時刻と時間に関する問題では、市平均を12.6ポイント下回った。</p>	<p>・時刻と時間については、日常生活と結び付けて考えられるよう、適宜話題にしたり、朝の学習や宿題等で復習する機会を設けたりすることで、理解の定着を図っていく。</p>
データの活用	<p>領域の平均正答率は19.4%で、市平均と比べて5.0ポイント下回った。</p> <p>●適切な棒グラフから、示された値を読み取る問題では、市平均を12.4ポイント下回った。</p>	<p>・グラフや表などから読み取ることに付いて、算数だけでなく、社会や理科等の他教科でも、読み取れることを丁寧に確認したり、説明させたりすることで、様々な表やグラフを比較しながら正しく読み取ることができるようにする。</p>

宇都宮市立白沢小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	64.7	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	59.7	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	79.6	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	48.2	57.7	56.2
観点	知識・技能	68.1	73.8	72.8
	思考・判断・表現	67.6	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>領域の平均正答率は64.7%で、市平均より7.4ポイント下回っている。</p> <p>○音を止める方法とトライアングルのふるえについて関連付けて考えることができるかどうかをみる設問や、電気を通すものについて理解しているかどうかをみる設問の正答率は80.6%、83.3%で、市平均とほぼ同じである。</p> <p>●実験の結果から風がものを動かすはたらきの変化を読み取れるかどうかをみる設問の正答率は47.2%で、市平均より14.5ポイント下回っている。</p>	<p>・実験結果を図や表にまとめたり、結果から考察したことについて話し合ったりする学習を通して、理解を深めていく。</p> <p>・身近な事象や生活経験と関連付けながら、学習への興味・関心を高め知識を身に付けさせていくよう努める。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>領域の平均正答率は59.7%で、市平均より5.5ポイント下回っている。</p> <p>○形を変えても重さはかわらないことについて理解しているかどうかをみる設問の正答率は83.8%で市平均より4.7ポイント下回っているものの、無回答率は0%だった。</p> <p>●同じ体積でもものの体積によって重さがちがうことについて表と関連付けて考えることができるかどうかをみる設問の正答率は36.1%で、市平均より6.2ポイント下回っている。</p>	<p>・実験する際には、予想を立てたり、結果を図や表に書いて整理したり、根拠を明確にして考察したりする学習を積み重ねていく。</p> <p>・学習プリントやAIDリルなどを活用し、多くの問題に触れることで知識が身に付くよう継続して指導していく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>領域の平均正答率は79.6%で、市平均より3.2ポイント下回っている。</p> <p>○植物や昆虫の体のつくりや昆虫のすみかについて選択式や短答式で答える設問の正答率はいずれも約90%で、市平均より約3ポイント上回っている。</p> <p>●虫めがねの使い方を身に付けているかどうかをみる設問の正答率は33.3%で、市平均より22ポイント下回っている。</p>	<p>・観察を行う際には、観察方法や観察器具の使い方など、基本的な知識・技能が身に付くよう、丁寧に指導していく。</p> <p>・身近な自然環境から得た知識をもとに、主体的に学び考える学習を通して、より学びを深めていけるような授業を展開していく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>領域の平均正答率は48.2%で、市平均より9.5ポイント下回っている。</p> <p>○太陽が動く方位を理解しているかどうかをみる設問の正答率は63.9%で、市平均より8.8ポイント上回っている。</p> <p>●方位磁針の使い方を身に付けているかどうかをみる設問の正答率は27.8%で、市平均より19.5ポイント下回っている。</p>	<p>・実験を行う際には、実験方法や実験器具の使い方など、基本的な知識・技能が身に付くよう、丁寧に指導していく。</p> <p>・学習プリントやAIDリルなどを生かし、多くの問題に触れることで知識が身に付くよう継続して指導していく。</p>

宇都宮市立白沢小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」や「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。」という設問はいずれも市平均を大きく上回っており、「学び合い」を意識した授業の成果が表れている。今後も互いに意見を交わし、高め合える授業を目指していきたい。

○「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。」や「むずかしいことでも、失敗を恐れずに挑戦している。」、「自分にはよいところがあると思う。」という設問では市平均を上回っており、自己肯定感が高く、失敗を恐れずに挑戦する強い心を持っている児童が多いことがわかる。今後も何事にも自信をもって取り組めるよう細やかな支援に努めていきたい。

○「毎日、同じくらいの時くくねている」「早ね、早起きを心がけている」などの生活習慣に関する設問は、市平均を大きく上回っており、規則正しい生活を送っている児童が多いことがわかる。これからも、健康的な生活習慣を送ることができるよう働きかけを続けていきたい。

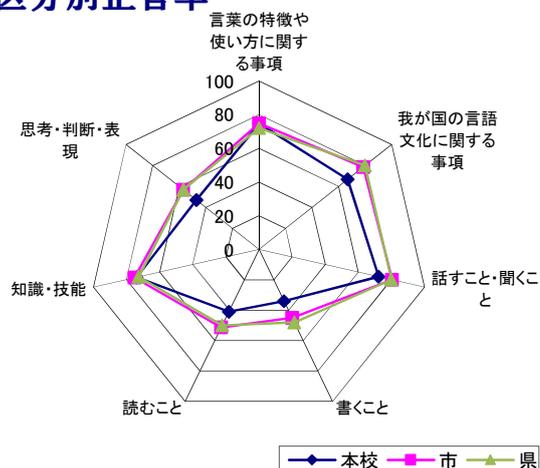
●○「学校の宿題の量はちょうどよいと思う」や「学校の宿題は、自分のためになっている」という設問はいずれも市平均を大きく上回っており、宿題に前向きに取り組む児童像がうかがえる。一方で、「家で、学校の授業の復習をしている」や「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」という設問では、市平均を大きく下回っており、宿題以外の学習に取り組んでいる児童は少ないことがうかがえる。これから高学年になるにつれて自主的に学習する力を高められるように宿題の出し方などにも工夫していきたい。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の肯定的割合は、市の平均よりも低い。しかし、ふだんの生活の中でメディアを利用してのゲームや動画視聴を2～3時間以上しているという児童が市の平均よりも5ポイント以上高い。インターネットや携帯機器を調べ学習等にも生かせるようにするとともに、家庭でのインターネット機器の利用に

宇都宮市立白沢小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.7	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	66.7	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	72.2	80.4	80.0
	書くこと	34.0	45.1	48.0
	読むこと	41.0	51.3	50.0
観点	知識・技能	74.0	75.2	72.8
	思考・判断・表現	47.1	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

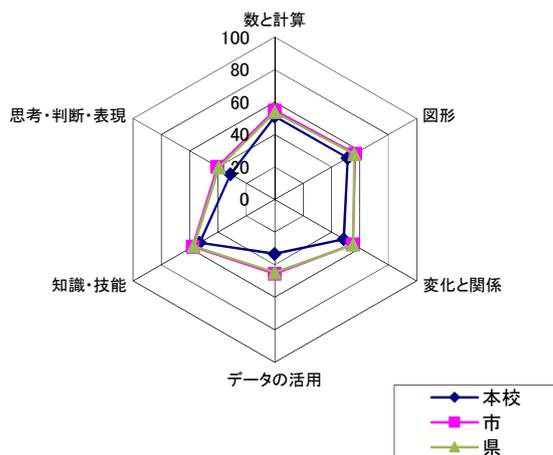
○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>領域の平均正答率は74.7%で、市の平均より0.1ポイント低く、同程度である。</p> <p>○漢字を読む問題では、正答率が高い。</p> <p>○連体修飾語の問題では14.7ポイント、連用修飾語の問題では4.3%ポイント上回った。</p> <p>●「熟語の漢字の組み合わせを理解して、熟語の意味を捉える」ことは、市平均より4.5ポイント低い。</p>	<p>・音読や暗唱に毎日取り組ませることで、正しい文章や言葉の使い方の定着を図る。</p> <p>・漢字テストや漢字練習を計画的に行い、習熟を図るとともに、様々な熟語に触れる機会を意図的につくる。</p> <p>・日常的に読書に親しめるような環境づくりに努め、本好きな児童を育てる。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>領域の平均正答率は、66.7%で、市の平均より11.9ポイント低い。</p> <p>●慣用句の意味を理解して、正しく使うことができていない。</p>	<p>・ことわざや慣用句を、朝の学習や授業等で積極的に取り上げ、我が国の言語文化に関する知識の向上を図る。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>領域の平均正答率は、72.2%で、市の平均より8.2ポイント低い。</p> <p>●「司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に、考えをまとめる」ことは、市平均より14.5ポイント下回っている。</p>	<p>・今後も、自分の考えをもち、他者に話す活動を積極的に取り入れる。また、自分の考えと、友達の意見と比べる訓練を日常的に行っていく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>領域の平均正答率は、34.0%で、市の平均より11.1ポイント低い。</p> <p>○回答した児童のうち、78%は、指定された長さで文章を書くことができています。</p> <p>●事実を伝える文章を書くことでは12.4ポイント、事実と自分の考えを書くことでは12.7ポイント下回っている。</p> <p>●約半数が無回答である。</p>	<p>・文章を書くときには、伝えたいことをメモに表して内容をよく整理し、自分の考えをまとめられるように指導する。</p> <p>・事実と自分の考えを分けて書くことを意識させたり、段落の構成を考えさせたりする活動を通し、整理された文を決められた分量で書けるようにする。</p>
書くこと	<p>領域の平均正答率は、41.0%で、市の平均より10.3ポイント低い。</p> <p>●「叙述を基に文章の内容を捉える」ことは、28.1ポイント下回っている。</p>	<p>・物語文を読む活動では、叙述に沿って登場人物の気持ちを考えさせたり、キーワードとなる言葉を見つけさせたりする。また、根拠となる叙述を明らかにする学習を行う。</p> <p>・説明文を読む活動では、段落の構成を意識させ、書かれた内容を正しく捉えることを意識して指導する。</p>
読むこと	<p>領域の平均正答率は、41.0%で、市の平均より10.3ポイント低い。</p> <p>●「叙述を基に文章の内容を捉える」ことは、28.1ポイント下回っている。</p>	<p>・物語文を読む活動では、叙述に沿って登場人物の気持ちを考えさせたり、キーワードとなる言葉を見つけさせたりする。また、根拠となる叙述を明らかにする学習を行う。</p> <p>・説明文を読む活動では、段落の構成を意識させ、書かれた内容を正しく捉えることを意識して指導する。</p>

宇都宮市立白沢小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	51.2	54.9	53.7
	図形	51.4	56.6	56.1
	変化と関係	48.6	55.1	55.2
	データの活用	33.3	45.5	44.8
観点	知識・技能	53.0	57.8	57.2
	思考・判断・表現	31.4	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

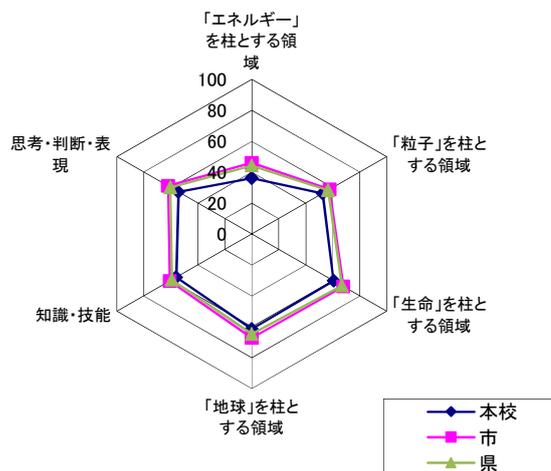
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は51.2%で市の平均を3.7ポイント下回っている。</p> <p>○大きい数の表し方を理解しているかどうかをみる問題では市の平均を10ポイント上回った。</p> <p>●数直線上の目盛りが示す分数を読み取り仮分数で表す問題では22.5ポイント下回っている。</p>	<p>・基本的な計算についての習熟を図るために計算練習を繰り返して行えるよう継続的に指導する。</p> <p>・分数の理解については今後も学習を通して数の大きさなど意識させながら指導を行っていく。</p>
図形	<p>平均正答率は51.4%で市の平均を5.2ポイント下回っている。</p> <p>○直方体の面に垂直な辺を答える問題では、市の平均を11.2ポイント上回っている。</p> <p>●平行四辺形の作図をする問題では、市の平均を19.7ポイント下回っている。</p>	<p>・作図については基本的な技能の定着を図れるよう繰り返し指導する。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は48.6%で市の平均を6.5ポイント下回っている。</p> <p>○伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、市の平均を3ポイント上回っている。</p> <p>●割合を使った比べ方について説明する問題では、市の平均を17.4ポイント下回っている。</p>	<p>・数量やその関係を表したり調べたりする学習ではテープ図や数直線等の具体物を取り入れ問題場面を視覚化した指導を行っていく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は33.3%で市の平均を12.2ポイント下回っている。</p> <p>●表の数が何を表しているかを答える問題では、市の平均17ポイント下回っている。また、グラフから読み取った数を示し、変化の様子を説明する問題では、69.4%の児童が無回答だった。</p>	<p>・グラフや表、設問の意味を正しく読み取ることができるよう、算数の授業だけでなく他教科でも意識的に指導していく。</p>

宇都宮市立白沢小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	36.1	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	52.5	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	60.6	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	61.4	67.2	64.6
観点	知識・技能	56.0	60.8	59.2
	思考・判断・表現	54.3	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>領域の平均正答率は36.1%で、市平均より9.9ポイント下回っている。</p> <p>●「検流計の針のふれ方からわかることを答える設問」においては、市の平均より17.4ポイント下回った。</p> <p>●「並列つなぎの名称を答える設問」では、市平均より10.3ポイント下回った。</p>	<p>・基礎事項の定着を図るために、既習の学習内容をよく復習し、確認してから授業を進める。また、類似問題を多く解く時間を確保していく。系統的な学習をさらに充実させていく。</p> <p>・実験や体験する活動を多く設定し、興味関心を高めさせる。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>領域の平均正答率は52.5%で、市平均より5.2ポイント下回っている。</p> <p>○「水をあたためたときの結果を選ぶ設問」においては、17.2ポイント上回った。</p> <p>●「水でっぼうから水が出る理由を選ぶ設問」においては、市の平均より24.8ポイント下回った。</p>	<p>・実験を行う際には、予想・実験・結果および考察という過程を習慣化していく。また、根拠を示し結果や考察が述べられるよう指導していく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>領域の平均正答率は60.6%で、市平均より7.2ポイント下回っている。</p> <p>○「春以外の季節の記録を選ぶ設問」において、市平均より3.7ポイント上回った。</p> <p>●「季節の順にならべたイチョウの記録を選ぶ設問」において、市平均より16.1ポイント下回った。</p>	<p>・総合的な学習や他教科との関連を生かし、季節の変化の様子に触れる機会を作るなど、自然に目を向ける機会を増やす工夫をする。</p> <p>・プリントやAIDリルを活用し、問題に触れる機会を多くし知識の定着を図る。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>領域の平均正答率は61.4%で、市平均より5.8ポイント下回っている。</p> <p>○「蒸発の名称を答える設問」において、19.9ポイント上回った。</p> <p>●「気温のはかり方として正しいものを選ぶ設問」において、19.8ポイント下回った。</p>	<p>・自然と関連した学習では、実際に観察したり映像を見たりするなど、実感を伴った理解ができるよう授業の工夫をする。</p> <p>・結果や考察からなぜそうなるのかを自分の言葉で書かせることを習慣化させ、表現力や思考力を高めていく。</p>

宇都宮市立白沢小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」と肯定的回答をした児童の割合は92.2%で、県平均より10.5ポイント高い。また、「授業ではクラスの友達と話し合う活動をよく行っている。」や「クラスは発言しやすい雰囲気である」と肯定的回答を児童の割合も県平均より高い。今後も児童がおもしろい、楽しいと思えるように「楽しく分かりやすい授業」を目指して授業を工夫したり、友達と関わり合いながら自分の考えを深めたり広げたりする活動を意図的に取り入れていきたい。

○「家で、学校の宿題をしている」と肯定的回答をした児童は100%で、県平均より4.1ポイント高い。また、「学校の宿題は、自分のためになっている。」と肯定的回答をした児童も100%で、県平均より4.2ポイント高い。児童は宿題を自分のために取り組み、家庭学習が習慣化されているので、今後も家庭と連携しながら、学習を積み重ねることができるよう支援していきたい。

○「人と話すことは楽しい」と肯定的回答をした児童は100%で県平均より4.4ポイント高い。また、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」や「自分も持っている能力を十分に発揮したい」の肯定的回答をした児童も県平均より高い。今後も様々な経験を通して、人と関わることの楽しさ、よさを学べるように支援していきたい。

●「疑問や不思議に思うことは分かるまで調べたい」の質問に、「はい」と答えた児童は10.5%で、県平均より17.1ポイント低い。また、「土曜日や日曜日など休日の日の学習時間についての設問」では、52.6%の児童が1時間より少ないと答え、18.4%の児童が全くしないと答えている。宿題には取り組むことができるので、主体的に学べるように自主学習の仕方について指導したり、児童の疑問や不思議を大事にする授業展開を行うようにしていきたい。

●ふだんの読書時間については、「30分より少ない」と答えた児童は79%で、県平均より17.7ポイント低い。また新聞については、89.5%の児童が全く読まないと答え、県平均より9.9ポイント高い。学級活動の時間に読書のよさについて学ぶ機会を設けたり、調べ学習で新聞を使用したりするなどの学習の機会を設けると共に、親子読書をするなど、家庭と連携を図っていきたい。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」と肯定的回答をした児童の割合は92.2%で、県平均より10.5ポイント

宇都宮市立白沢小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学び合い活動の充実・言語活動の質的向上	全ての学年・クラスで、発達段階や場面に合わせて、ペア・トリプル・グループの話し合い活動を多く取り入れ、表現の仕方を指導している。	4・5年特に「書くこと」の領域で市平均を下回っている。また記述式の形式で市平均を下回っている。また4・5年共に文章の要約を読み、空欄に適する語を書き抜く設問で市平均を大きく下回っている。記述式の設問については、無回答率が高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語科において、4・5年生ともに「書くこと」の領域で、市平均を下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> 朝の学習「言葉の時間」 自分の考えを書く機会を設ける。 家庭と連携を図る。 	週に一回、朝学「言葉の時間」を設定し、言葉遊びや試写、暗唱、短文作りなど、様々な言葉や文章に触れる機会を設ける。また、授業では、教師主導でまとめをするのではなくまずは児童にまとめをさせるなど、書くこと、要約することを積み重ねていく。また、日記や親子読書などに取組ませ、家庭と連携しながら書く力を高めていく。